

## 2025年前半の日程

- 2/12 (水) 国会内シンポジウム (詳細未定)
- /18 (火) 国賠訴訟証人尋問① (10:00~東京地裁)
- /26 (水) 京都事件一審判決 (13:30~京都地裁)
- 3/7 (金) 国賠訴訟証人尋問② (10:00~東京地裁)
- 4/17 (木) 加茂生コン事件差戻し審判決 (14:30~大阪高裁)

-----

2025 年前半は上記のとおり重要な出来事があいつぐ。

昨年は、3 件目の無罪判決確定、MBS ドキュメンタリー「労組と弾圧」、外国特派員協会会見などで「関西生コン事件」の流れが大きく変わり始めた。今年2月の京都事件、加茂生コン事件の判決で無罪判決をさらに広げるため活動を強化していく。また、国賠訴訟の証人尋問では、「連帯削る」と組合つぶし発言をした検察官ら3名が証人尋問に登場する。

\*\*\*\*\* :

## 2025元旦行動、大阪府警前に450人

韓国の市民・労働者の大衆運動を背景とし、12.3 大統領の戒厳令布告が内乱罪に該当するという高捜庁が、ソウル地裁に大統領の逮捕状請求した司法の動きの中、日本では7回目の「労働組合つぶしの大弾圧を許さない！元旦行動」が、寒風の大阪府警察本部前で450名の多くのたたく仲間参加のもと行われた。

今年2月26日に「京都事件」地裁判決が予定されているが、検察は湯川委員長に懲役10年を求刑するなど、まさにたたく労働組合に対する不当な弾圧だ。憲法28条に保障された労働基本権と、まともな労働運動を守ろう、警察は労働運動に介入するなど氣勢を上げた。主催者の大阪実行委員会・小林代表のあいさつにつづいて、湯川委員長は「企業別労働組合が多数を占める現在、ストライキもしないし出来ない。これでは労働者を守ることはできない。私たち関生支部は産業別労働組合だ。今や産業別労働組合しか労働者を守れない。この産業別労働組合の運動を警察・検察・資本はつぶそうとしている。2.26がどんな判決であっても私たちはたたくい続けます」と発言。

京滋実行委員会の服部恭子共同代表は「権力に付度しない、まとも判断が裁判所に問われている。2.26に向けて、この思いを裁判官に届けるため、抗議行動やデモを多く計画している」と大衆行動の参加を呼び掛けた。東海の会、兵庫の会の連帯あいさつ、レギュラー出演の「法円坂55」による替え歌等大きな歌声が集会に響いた。

さらに、衆議院議員大石あきこ(れいわ新撰組)、参議院議員大椿ゆうこ(社民党)のお二人の挨拶のほか、若狭の原発を考える会木原壯林さんが、「50年超え老朽原発の再稼働など、人間を犠牲にする政府・権力に対して、労働組合運動を強化し反撃していこう」と述べた。(脱原発市民ウォーク in しが近江八幡 2021、沢井清さんの記事を転載)

